

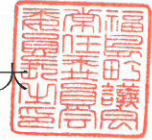
福 議 委 号

令和5年10月25日

福島町議会議長 溝部 幸基 様

総務教育常任委員会

委員長 藤山 大



所管事務調査報告書の提出について

令和5年9月12日福島町議会定例会9月第2回会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第148条の規定により、下記のとおり報告する。

記

調査事件	4 福島商業高等学校の魅力化について	
調査期間	令和5年10月13日	
出席委員	委員長 藤山 大 委員 杉村 志朗 委員 平野 隆雄	副委員長 熊野 茂夫 委員 木村 隆 委員 溝部 幸基
委員外議員	議員 佐藤 孝男	議員 平沼 昌平
出席説明員	町長 鳴海 清春 教育長 小野寺則之 学校教育担当次長 西田 真弓	副町長 工藤 泰 教育委員会事務局長 石岡 大志
議会事務局職員	事務局長 鍋谷 浩行 主任 角谷 里紗	係長 福井 理央

[委員会意見]

調査事件 4 福島商業高等学校の魅力化について（令和5年10月13日調査）

福島商業高等学校の魅力化については、町としてもこれまで様々な取り組みを実施しており、当委員会においても継続して調査を行っている。

この度、町の高校魅力化と来年度の入学者確保に向けた取り組みの現状について資料が示されたことから、その内容を調査したので、調査結果を報告する。

【論点とした調査項目・意見】

入学者確保に向けた福島商業高等学校魅力化の取り組みの現状、今後想定される課題と対策については一定の理解をしたが、次の事項について検討されたい。

1 地元生徒へのPRについて

福島商業高等学校への地元中学校からの進学が少ない要因として、子ども達がそれまでの環境を変え新たな体験を求めているとの声も聞こえている。全国募集をきっかけに町外から生徒が入学することで、地元の高校でも子ども達が求める新たな体験が得られる状況になっていると推察されることから、地元の子どもの達に対しても高校の魅力化をしっかりとPRしていく必要があると思慮する。

2 魅力ある教育課程の推進について

オープンキャンパスにおいて、ドローンの操作体験を行っている。高校魅力化の一つとしてドローン資格の取得は有効と考えるが、現状、高校においてドローン进行操作するための場所や指導できる教員等の体制が整っていないとのことであり、高校魅力化の一つとしているのであれば生徒が確実に資格取得出来るよう早急に体制を整える必要があると思慮されるので、教育委員会においては、高校はもとより小中学校の教員（福島アカデミー）も含めて連携しながら対応されるよう検討されたい。

3 青少年交流センターの受入状況について

町ではオープンキャンパス等の状況から来年度以降の町外からの入学者数を予測すると部屋数に不足が生じると見込まれることから、対応策として青少年交流センターの増築の方針を示し、増築規模については、1月の願書提出の状況を見ながら検討するとのことだが、現在策定中の第6次総合計画において入学予定者数を20人と設定しており、目標数も加味し総体的に検討しなおす必要があると思慮する。

入学者が増える予測は歓迎すべきことであり、対応策として施設の増築を

検討することについては理解をするが、急激な物価高騰、大型事業が続いている現状での財源確保の厳しさが予想されることから、増築計画は慎重に検討する必要がある。関係機関との協議においては高校の必要性、魅力化に向けた取り組みを強く訴え、有利な財源を確保できるよう努力されたい。

また、予想を超える入学者が期待されることから、寮で生活する生徒が快適な高校生活を送れるよう指導・助言し見守るハウスマスターを増員する等、人員体制の整備も大きな課題となると思慮するので早急に検討されたい。